資料1

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度
岩手県意見交換会（第3回）

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2020年1月20日

目次

1. 意見交換会の概要
2. 「実践の場」企画背景
3. 「実践の場」概要
4. 「実践の場」開催報告
5. 次年度扱うテーマのアイディア
6. 意見交換
　「実践の場」の振り返りと次年度の取組

＜参考資料＞

- 福島県「実践の場」概要
- 宮城県「実践の場」概要（予定）

1．意見交換会の概要　―　目的・今年度の方向性

第1回資料再掲

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。
今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。

意見交換会の目的	意見交換会の取組に対するご意見*1
復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を共有し合うとともに、地域の課題解決に向けた、多様な主体による協議・協働を生み出すこと	• 民間のパワーを巻き込み、関連するものを具体的なテーマとして扱えると良い • アイディアだけでなく具体的アクションに繋げたい • 地域でチャレンジをしている人を、各会員の持つ支援メニューを活用してサポートするスキームが必要 • 地域振興に携わる方等にも関与してもらえると良い

実施上のポイント

- 会員団体の巻き込み（横の連携）
- 議論のさらなる活性化
- 団体の活動につながる成果の創出

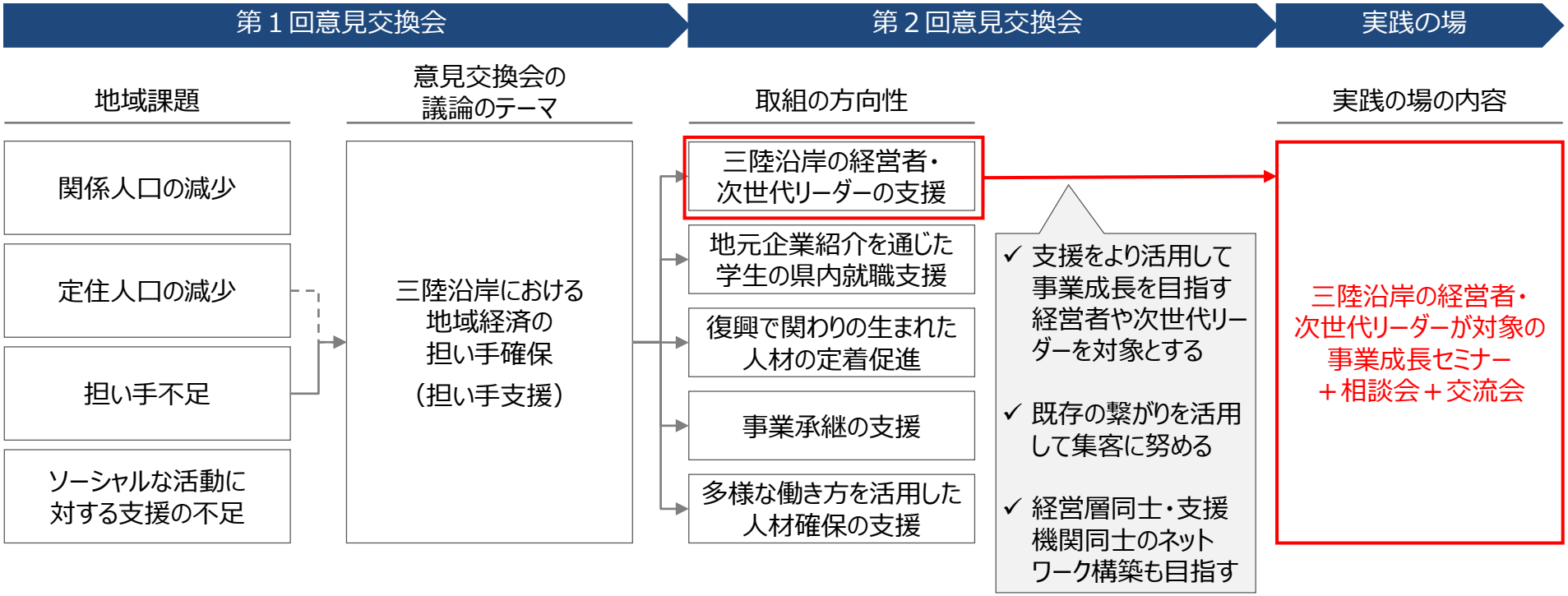
令和元年度 意見交換会の方向性

✓ テーマに関係する会員団体（「連携対象団体」）に意見交換会へ参加してもらい、地域課題解決に向けた議論や「実践の場」の企画に共同で取り組む。
✓ 参加団体*2や連携対象団体の活動をより深め・広げるための活動を「実践」と定義し、意見交換会の成果として自律的・継続的な「実践」を生み出す。

*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用　　*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

● 2．「実践の場」企画背景

第1回・第2回の意見交換を通じて、三陸沿岸における地域経済の担い手支援を目的に、特に経営者や次世代リーダーが対象となる事業成長セミナーと相談会・交流会を企画しました。



● 3．「実践の場」概要

意見交換会やその後の登壇者との調整を踏まえて、以下の内容で「実践の場」を開催しました。

開催日時	2019年11月25日（月）13:30～16:20	開催場所	大船渡市（市民交流館カメリアホール）
タイトル	さんりく事業成長セミナー・交流会 ～オール岩手で経営層をサポートします！～		
参加対象者	岩手県沿岸地域の経営層（経営者・次世代リーダー） ※沿岸地域で今後起業や支店開設等を検討している方も参加可能 特に以下のような方におすすめ ・ 経営支援策について知りたい、もっと活用したい ・ 業界の枠を越えて経営層同士の繋がりがほしい、交流したい		
実施内容	**【第１部　セミナー】** テーマごとに、支援のスコープ・アプローチの異なる団体が、支援策や事例を紹介。 ① 魅力発見～発信～人材確保（岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点） ② 資金調達（いわぎん事業創造キャピタル、岩手県復興局） ③ その他多様な支援策（いわて連携復興センター、岩手大学） **【第２部　前半：支援機関と経営層の相談会】** 支援機関2,3団体がチームになって15分ずつ3テーブルを回り、 各テーブルの参加者が抱えている事業の悩みややりたいことについて自由に相談。 **【第２部　後半：経営層同士の交流会】** テーブルを離れてフリースペースで参加者同士（又は参加者と支援機関）が交流。		
登壇者	• 岩手県　復興局　佐賀様（伊五澤様の代理） • 岩手県　沿岸広域振興局　横澤様 • 岩手銀行　山崎様、川村様 • いわぎん事業創造キャピタル　及川様 • 岩手大学　今井様 • いわて連携復興センター　葛巻様、瀬川様、高田様 • 岩手県プロフェッショナル人材戦略拠点　齊藤様 • 大船渡商工会議所　小原様 • 復興庁　益満、犬伏		

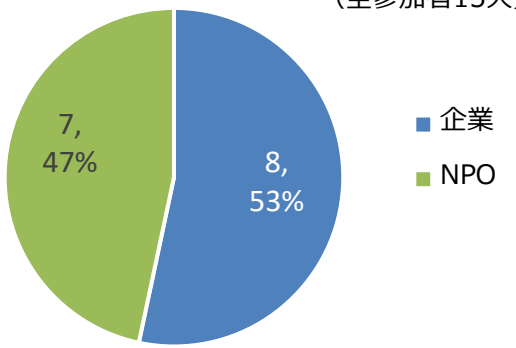
（ご参考）当日の様子

● 4．「実践の場」開催結果　―　参加者の特徴

参加者15人は、企業とNPOがほぼ同数（8人：7人）で、大多数が現役の経営者でした。
イベントを知ったきっかけは復興庁からの案内が最多でしたが、商工会議所や連復の情報をもとに参加された方もいました。

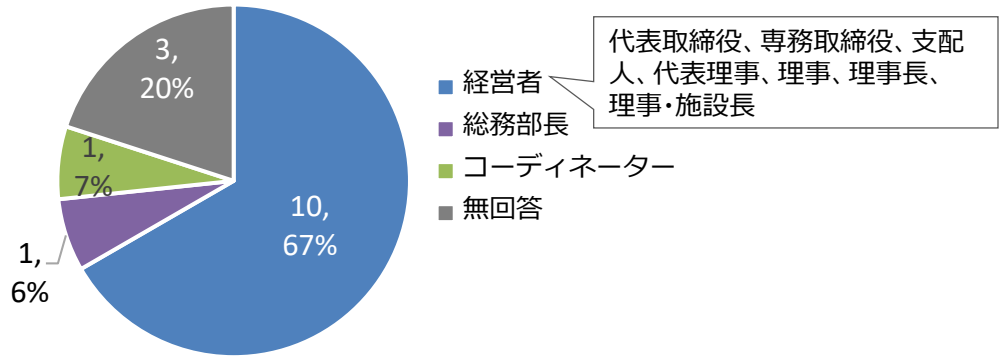
【セクター（企業／NPO）】

（全参加者15人）



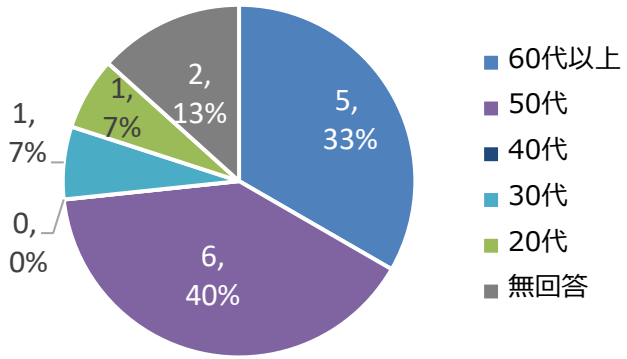
【役職】

（全参加者15人）



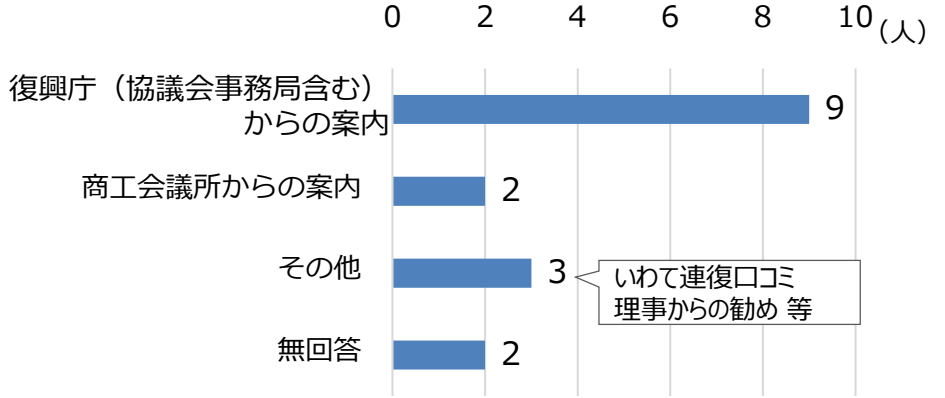
【年代】

（全参加者15人）



【Q.3このイベントを何で知ったか（複数回答可）】

（回答者13人）

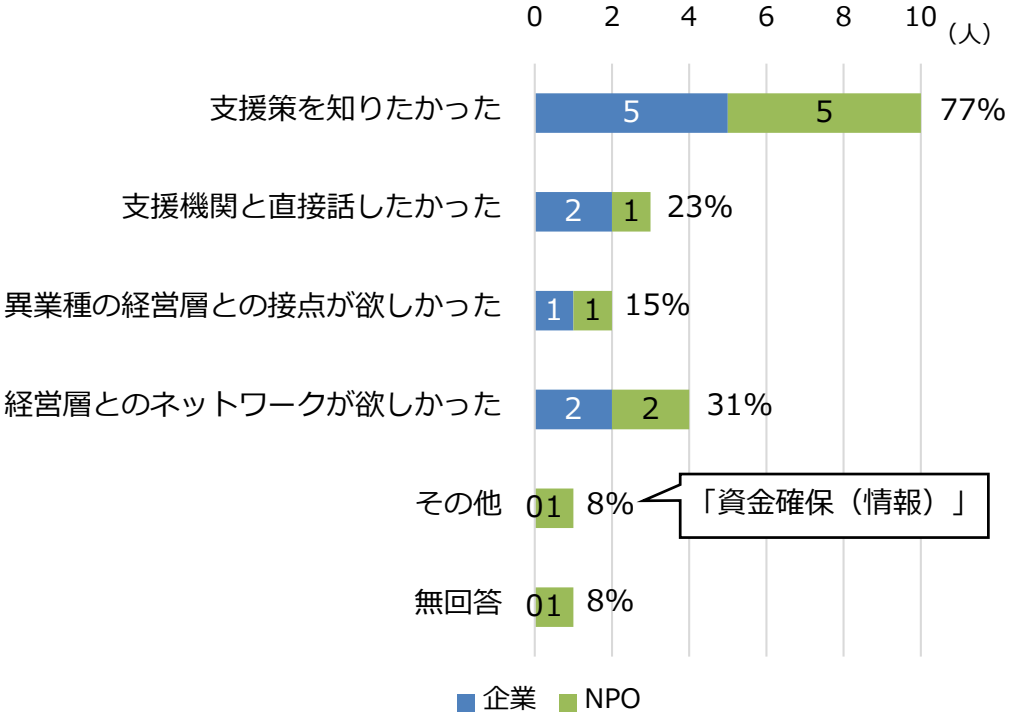


● 4．「実践の場」開催結果　―　参加目的・満足度

参加目的は「支援策を知りたかった」が最も多く（77%）、その他相談や交流に関する目的は3割以下でした。
イベント全体とセミナーについて「とても満足」「満足」と回答した人は約7～8割だった一方で、第2部は4割前後（未回答や不参加を除くと約6割）に留まりました。

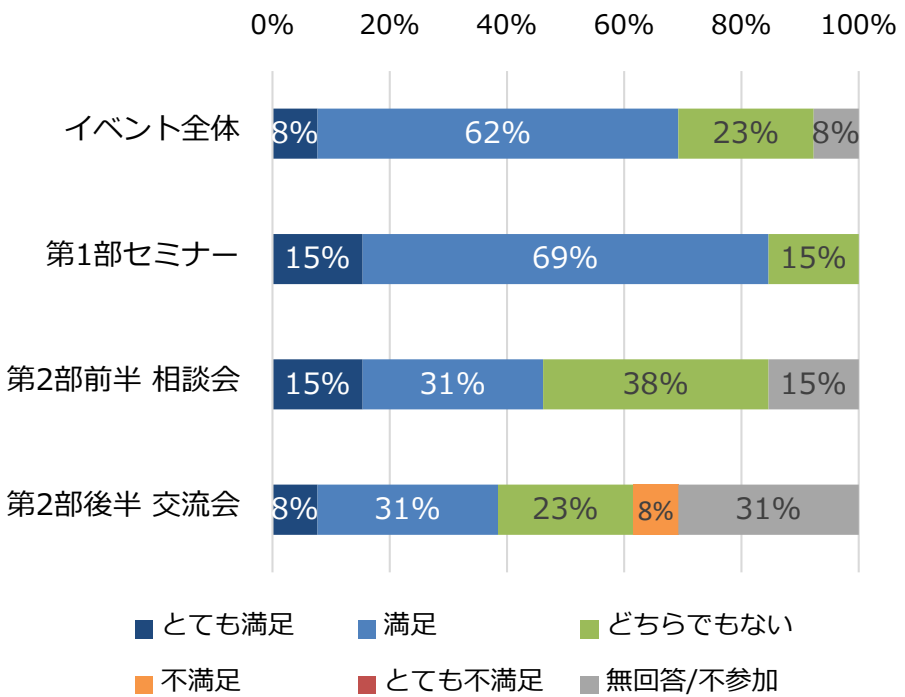
（回答者13人）

【Q4.参加した目的（複数回答可）】



（回答者13人）

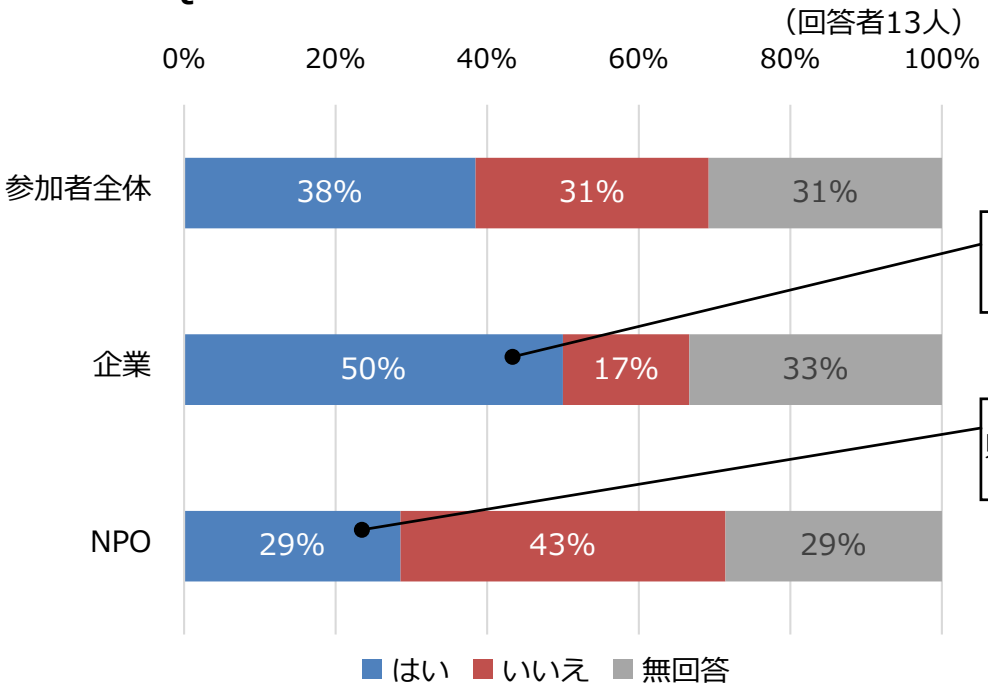
【Q5.イベントの満足度】



● ４．「実践の場」開催結果　―　効果測定①多様な支援策を知ってもらう

セミナー自体の満足度は高かったものの、具体的に活用したい支援策を知れた人は全体の4割程度でした。

【Q7.活用したいと思う支援策を知ることができたか】



【（「はい」と答えた人のみ）どの支援機関のものか】
（複数回答可）

プロ人材拠点（1人）、県庁（1人）、岩手大学（1人）

県庁（1人）、事業創造キャピタル（1人）、岩手大学（1人）

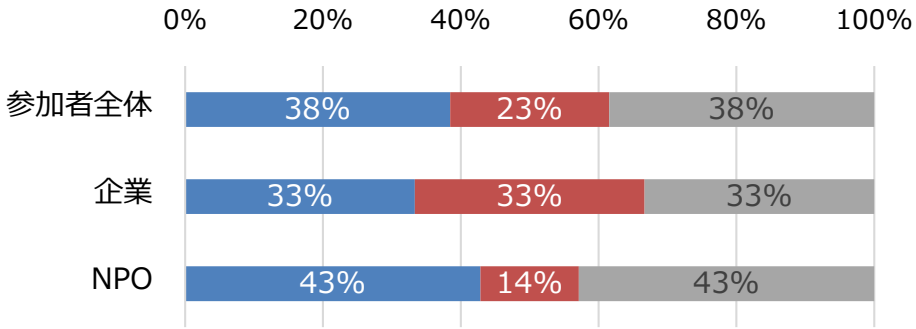
● 4．「実践の場」開催結果　―　効果測定②ネットワーク構築を支援する

今後も繋がりたい団体を見つけた人は全体の4割程度でしたが、メーリングリストは半数以上が参加を希望しました。また今後に向けては、数は少ないながらも企業・NPO双方に連携のニーズがありました。

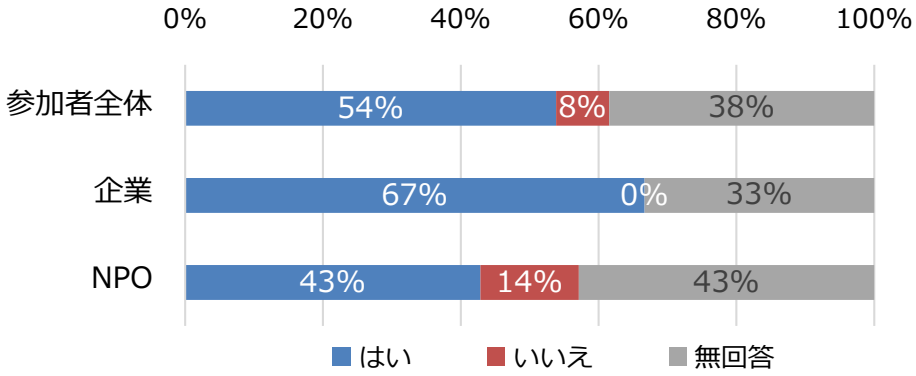
本イベントの参加者同士について

（回答者13人）

【Q8.今後も情報交換や連携をしたい団体はいたか】



【Q10.メーリングリストへの参加を希望するか】



今後に向けて

（回答者5人）

【Q9.今後どのような企業・NPO等との繋がりがほしいか】

回答者	連携先の希望
企業	• 共同開発できる企業 • 販売に役立つNPO • 三陸を元気にしたいと思っている団体
NPO	• 子育て支援に関心のある企業 • 障害理解のある企業やNPO

● ４．「実践の場」開催結果　―　参加者からのご意見

参加者から支援機関に対して、団体の特徴・希望などに合った適切な情報提供や支援を期待する意見が挙がりました。

【Q.11 支援機関に今後どのようなことを期待するか】

- 企業の希望をとり入れて欲しい
- 具体的な案件紹介
- 企業として挑戦する課題に対する支援
- 適切な情報と無駄なく先読みされた情報の提供
- 必要な資金を低金利で融資頂けること
- 柔軟な調査研究体制の確立
- 適切な人材派遣
- 広く満遍なくする支援ではなく戦略的な取捨選択

● ５．次年度扱うテーマのアイディア

次年度の意見交換会テーマ「東日本大震災10年目に向けて」

次年度は震災からの９年間を振り返り、復興・創生期間後を展望する
取組を意見交換会で企画・実践していきたい

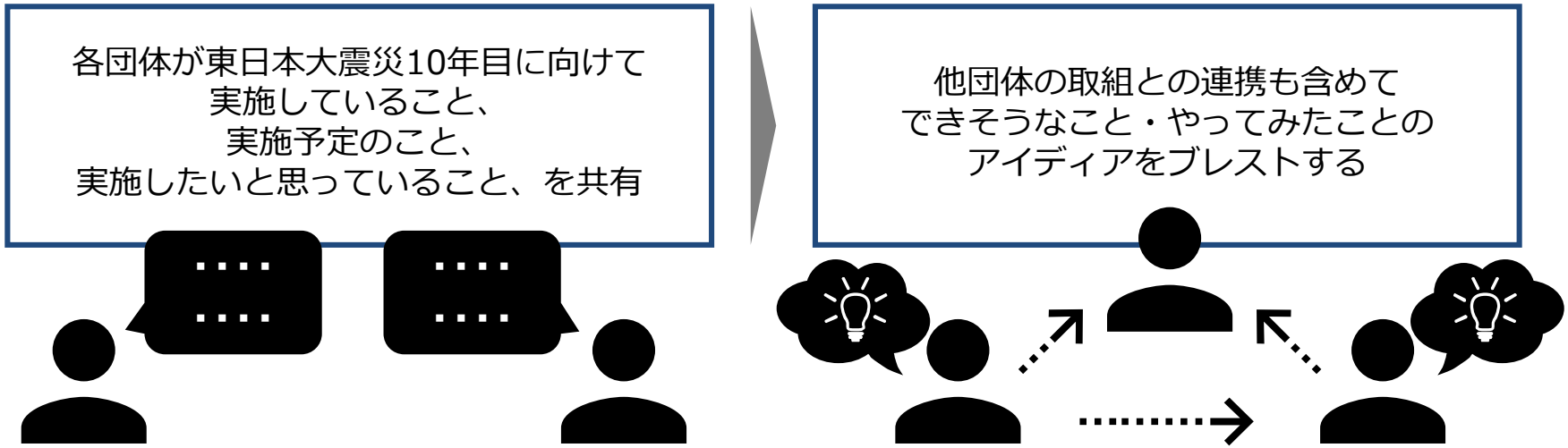
【令和２年度　予定（案）】

６月頃　　第１回　意見交換会：イベント内容について具体的な議論を行う
秋　　復興シンポジウム（仮）：政府主催、東京開催
　　実践の場イベント：協議会主催　被災３県で開催

● 6．意見交換：「実践の場」の振り返りと次年度の取組

① 開催結果と次年度の取り組みを踏まえて、今回の「実践の場」の良かった点・改善点・継続に向けた示唆についてご意見ください。

② 東日本大震災10年目に向けて、次年度の意見交換会ではどのような取組を行うとよいか、各団体の取組（予定や案も含む）を参考にしたアイディアについてご意見ください。



参考資料

● 福島県「実践の場」概要

福島県では「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）」をテーマとして意見交換を行った結果、県内の高校・大学生向けに、福島での働き方を広く知ってもらうイベントを開催することとなりました。

開催日時	2019年12月8日（日）13:30～16:00	開催場所	福島市 （福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ」）
タイトル	ふくしまキャリア探求ゼミ ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～		
企画趣旨	福島県では若者の県外流出が地域課題として挙げられ、昨年度から引き続き、福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）をテーマに取組を行うこととした。 身近で地道に活動されている方も含めて昨年よりも幅広くゲストを迎え、県内在住の高校生・大学生をメインターゲットとして、福島での働き方を知ってもらうための場を企画した。		
参加対象者	福島県内の高校生および大学生（福島県出身で県外在住の学生や、学校教員等の社会人の参加も可能） 特に以下のような方におすすめ ・ 進学や就職など将来のことをそろそろ考えようと思っている方 ・ 楽しく働いている話を聞いて、勉強や就活へのモチベーションを上げたい方		
実施内容	**1．アイスブレイク、登壇者紹介** 参加者同士が自己紹介や参加理由を話し、アイスブレイク。その後ファシリテーターから登壇者7人について紹介。 **2．車座トーク（2回）** 登壇者1名を参加者3～6名が囲む車座形式のトークを30分×2回実施。 一方的に話すのではなく双方向に、そして近い距離で、対話することを目指す。 **3．個人ワーク** 参加者それぞれの言葉やイラストで、自身の過去・現在・未来（3年後/10年後）を表現するワークを実施。 車座トークで聞いた経験談やアドバイス、自分が日々思っていることを改めて整理し、咀嚼するための時間。		
登壇者 （順不同）	• 株式会社東邦銀行　石川　淳一 様 • 株式会社タカワ精密　渡邉　光貴 様 • 株式会社関美工堂　関　昌邦 様 • ファームつばさ　清水　大翼 様	• 株式会社Blue porte　青戸　明美 様 • 弁護士法人いわき法律事務所　菅波　香織 様 • 一般社団法人Switch　久保田　健一 様	

● 宮城県「実践の場」概要（予定）

宮城県では「沿岸地域の仕事の担い手不足解消」をテーマとして意見交換を行った結果、観光とSDGsを組み合わせた取組を地域一体で生み出すためのきっかけとして、集中検討会を開催することとなりました。

開催日時	2020年1月24日（金）15:30～18:00	開催場所	東松島市（矢本西市民センター）
タイトル	牡蠣で東松島を盛り上げよう！ ～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～		
企画趣旨	宮城県沿岸地域の仕事の担い手不足解消に向けて、東松島市・観光に焦点を当てた取組を行うこととした。 東松島の観光に関しては、人手不足よりも能力不足や継続的な連携を牽引する担い手の不足が課題であり、さらに、SDGs未来都市として市の住民や民間団体がSDGsを正しく理解し行動することが求められている。 こうした現地の状況を踏まえ、観光とSDGsを組み合わせた取組を地域一体で生み出すためのきっかけとして、集中検討会（ワークショップ）を開催する。		
参加対象者	東松島市の観光産業に関心のある市民・民間団体 特に以下のような方におすすめ ・ 牡蠣を使った商品開発や観光ツアーの企画に興味のある方 ・ 東松島の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい方		
実施内容	**１．参考情報共有** 議論の参考になる情報を参加者に対して共有する。 • 観光を取り巻く市場について （石巻圏観光推進機構より） • 東松島の観光、SDGsについて （東松島市より） • 東松島の牡蠣について （宮城県漁業協同組合 鳴瀬支所より） **２．ディスカッション** 「東松島の牡蠣を用いた観光施策」をテーマとしつつ、サブテーマ別に6テーブルに分かれて、以下の①～④について検討する。特に④の検討を通じて、後日も活動が自立・継続することを目指す。 【①観光施策の具体案 ②関連するSDGsの指標 ③当該施策のキャッチコピー ④直近の実行計画案】 **３．最終発表** 各チームで検討した①～④の内容を、全体に対して共有する。他のテーブルからは、深掘りや内容改善のための質問・コメントを伝えることで、全体での意見交換や相互理解の促進を目指す。		